―平成20年度新規購入資料の紹介―

愛国百人首中抜粋二十三首折画帖

この画帖は、太平洋戦争中、大阪の和田仁作（長岡市出身）という実業家の求めによって作られたもので、絵は日本画家の福岡青嵐※1、書は相馬御風が手がけました。24曲の両面に「愛国百人首※2」から抜粋した22人※3に軍人山本五十六を加えた23人の肖像と短歌を収録し、最終ページには、御風の短歌と青嵐の記述があります。二人ともに円熟期の合作であり、〝傑作〟と呼べる出来栄えでしょう。

画帖の寸法は、縦33センチメートル・横24センチメートル、秩入り、完成は青嵐の直筆で「昭和十九年冬」と記されています。作成部数は不明ですが、書・画ともに肉筆であること、販売目的ではないこと、他に所在が確認できないことなどから、この一冊のみと考えていいでしょう。詳しい制作過程などは、昭和19年前後の御風宛青嵐書簡に記されています。

解説　福岡青嵐と相馬御風

二人の交流は、御風が東京朝日新聞に連載した「良寛坊物語」（昭和3年）の挿絵を青嵐が描いたのを契機にはじまり、これ以降、御風最晩年まで20年以上におよびました。当館所蔵の御風宛青嵐書簡26通（封書16通、葉書10通）には、良寛研究を中心とする二人のやりとりの様子が記されています。書簡はすべて『相馬御風宛書簡集Ⅲ』に収録していますので、興味のある方は、ぜひご覧ください。

※1　福岡青嵐（ふくおか・せいらん）
明治12年～昭和29年、熊本県出身、本名は美雄。東京美術学校（現東京芸術大学）卒、日本画家。人物画を得意とし、歴史や文学をテーマとする作品を多く描きました。大正8年、南画家の矢野橋村、作家の直木三十五らと主潮社を創設し、機関誌「主潮」を刊行しました。代表作は絵画「丙丁童子」（昭10）、「明恵伝」（昭13～16）など。

※2　愛国百人首
戦時下の昭和17年、日本文学報国会が企画・発表したもので、短歌の選定には佐佐木信綱、土屋文明、窪田空穂、斎藤瀏、北原白秋など12人があたりました。日本文学報国会会長の徳富蘇峰をはじめ、選定委員には御風と馴染みの人物が多く見られます。

※3　「愛国百人首」抜粋22人
藤原良経、今奉部與曾布、笠金村、丈部人麻呂、小野老、海犬養岡麻呂、阿部女郎、遣唐使々人母、山上憶良、高橋虫麿、柿本人麻呂、足代弘訓、野村望東尼、田安宗武、吉田松陰、源実朝、本居宣長、森迫親正、北畠親房、楠木正行、宏覚禅師、鹿持雅澄　（掲載順）

〔原　文〕
本居宣長
志起之ま能やまと心を
人とはゝあ佐日尓にほ布
やま佐久ら花

〔読み下し文〕
敷島の　大和心を　人問わば
朝日に匂う　山桜花

本居宣長の和歌と肖像

御風関連書籍等の目録

平成20年1月1日～12月31日

◇「洗心」第18号（5月8日・御風会会報）
「早稲田大学校歌と相馬御風」石井洋一、「大町塋域・相馬家墓地の碑」藤巻道夫、「天津神社・春大祭における『詩歌連俳贈答』と御風先生」赤野光夫、「相馬御風と郷土史(4)御風が泊った家」松野功、「相馬御風と県立糸魚川中学校」蛭子健治、「御風と文化財(1)長者ケ原遺跡」木島勉、「御風周辺の人々(11)安田靫彦―御風宛書簡から―」金子善八郎、「御風の書鑑定」高橋秀之

◇『新潟県人物小伝―良寛』（4月1日、加藤僖一著）相馬御風収集良寛資料2点ほか

◇「第四銀行ゴールドクラブ会報」第33号（4月1日）7P～「偉人ゆかりの地を訪ねて(1)糸魚川市―相馬御風」

◇ワンコインブック「良寛さま」相馬御風著・英訳版（5月31日・考古堂）

◇『生誕250年記念―良寛とゆかりの人々』（6月14日・同実行委員会）相馬御風作品および収集資料21点ほか

◇『別冊太陽―良寛　聖にあらず、俗にもあらず』（6月30日・平凡社）相馬御風収集良寛資料3点ほか

◇刈羽村立図書館報「ラピカステーション夏号」4P～「新潟県の作家」

◇「新潟県文人研究」第11号（12月13日）「相馬御風宛書簡について(三)―安田靫彦」88p～金子善八郎